

アジア多国籍医師団構想報告 (3)

代表 菅波茂

会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか

自然災害や難民に対して国際緊急救援医療チーム派遣を目的とした「アジア多国籍医師団構想」が現実化してきています。

「アジア多国籍医師団構想」の特徴をあらためて説明いたします。

- 1) 自然災害や難民に対する緊急救援医療活動である。
- 2) アジアの多様性（多言語／多文化／多宗教）をふまえた現地のニーズに対応できる。
- 3) アジア参加国による対等な人的貢献である。

さて、上記の3点をふまえて、バングラデッシュのミャンマー難民緊急救援医療プロジェクトを開始いたしました。この3月27日より先発隊がそして4月10日から第一次医療隊が現地に出発いたしました。慌ただしい準備のため皆様への連絡報告が遅れましたことをお詫び申し上げますと共に、現在までの経過を報告いたします。

1991年6月東京で開催されたAMDA-Japanの総会で菅波茂代表より初めて「アジア多国籍医師団構想」が提出されました。続いて1992年11月にバンコックで開催されたAMDA-Internationalの9カ国代表者会議で正式にAMDA-Internationalのプロジェクトとして決定されました。正式発足は1993年5月の予定にしています。1992年は準備期間として位置づけています。

1992年の2月頃より、新聞報道に見られますように、バングラデッシュのミャンマー難民の問題が顕著化してきました。3月に入りAMDA-BangladeshのDr.Nayeem（東京大学医学部第2外科留学中）よりAMDA-Bangladeshのリーダーシップのもとにアジア多国籍医師団を派遣することが提案されました。

急遽、AMDA-Japanの執行部会を開催してAMDA-Bangladeshに協力して医療チームを編成して派遣することに決定しました。同時にAMDA-Nepal, AMDA-PhilippinesそしてAMDA-Indiaにも参加要請をいたしました。

4月10日現在の時点でAMDA-Japanより8名、AMDA-Nepalより3名、AMDA-Bangladeshより10名が参加予定です。経過によっては他の支部にも参加を要請する予定です。